

# 小学部第1学年算数科学習指導計画

- 1 単元名 ひきざん
- 2 単元の目標
  - 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。
- 3 単元計画と対話的活動の場面
  - 13-9のけいさん
  - 12-3のけいさん
  - かあどれんしゅう
- 4 本時の目標
  - 減数が8の場合の計算ができるようにする。
- 5 本時の展開 (3/ 13)

計算の仕方、考え方等をペアで交流させる。

| 段階 | 学習内容・活動   | 手だて  | 日本語指導<br>特別の支援   |
|----|---|--|--|
| 導入 | 1 前時までの学習を振り返る。<br>○ 減数が9の時の計算の仕方を復習する。<br>2 本時のめあてを確認する。<br>○ 課題「14-8のけいさん」を提示し、前時との違いを考える。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めあて：8をひくけいさんのしかたをかながえよう</div>                  | ○ 前時のノートを見せ、9をひく式と、本時の8をひく式を比べる。<br>○ めあてを書き終わった人から発表させ、しっかりめあてを確認させる。   | ○ 前時のノートを見て、音読させる。<br><b>【理解支援】</b>  |
| 展開 | 3 学習の見通しをもつ。<br>○ 14-8の計算の仕方を、ブロックを用いて考える。<br><br>○ 考えたことを、図や式にしてノートにまとめる。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">対話活動：ペアでまとめたことを伝え合う</div> 4 計算練習<br>○ 11-8でも同様の計算の仕方で、解けるかを確かめる。 | ○ ブロック操作をする際に、10のまとまりが作りやすいように、10のまとまりケースも使用させる。<br>○ 数回ペアを交代し、自分の考えがあっているかや、様々な発表の仕方に触れさせて、引き算の仕方を理解させる。<br><br>○ 必要に応じてひきざんカードを配付する。 | ○ ブロックの図をノートに貼らせて簡単に考えをまとめられるようにする。<br>○ まとめることが苦手な子に対しては、ひきざんカードを渡し、穴埋めさせる。<br>○ 机間指導し、上手く伝えられない子の発表を手伝う。 |
| 終末 | 5 本時のまとめを行う。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">まとめ：10のまとまりから8をひく</div> 6 アウトプット・ふりかえり   | ○ 学習したことを伝え合い、定着を図る。<br>わかったことや、次に学びたいことを振り返らせる。   | ○ 前時のまとめを参考に考えさせる。<br>(10のまとまりから9をひく)  |

授業改善のポイント

- ① 【「対話活動」に関する手立て】

○児童の実態として、ペアで交流する方が、3～4人で交流するよりしっかり参加できる。  
なので、自分が考えた計算の仕方を、ペアで交流する形をとっている。考えを交流することで、違いに気づいたり、考えがまとまっていない児童の支援になったりすると考える。

②日本語支援の視点

○算数だけでなく、国語でもノート書き方を指導するときに実物投影機を使用し、教師がノートに書いたものを真似させている。計算の仕方を文章で書けなくても大丈夫なように、図をノートに貼らせて○で囲んだり、線をひいたりすることだけでも考えをまとめられるようにした。

○繰り返し計算の仕方を音読させて、定着を図る。